

B5自己評価総括表(公表分)

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	よい子のお家ききょう		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の活動面積が適切に保たれており、児童に取っても見守りの職員に取っても動きやすい動線であることが、支援の充実に寄与し、怪我のない動きを保たれていると感じている	活動の内容による適切な環境設定を行い、パニック時のクールダウン専用の小部屋を配置し、見守りと分離の両立を図っている。	整理整頓を中心に、余分なものを放置せず、必要なものを必要な時だけ配置するように心がけたい。
2	保護者からの信頼と情報共有を心がける	日常的な情報のやり取りや、事業所内での児童活動内容を詳細に伝えるとともに、児童の成長した姿をその時々に応じた形で発信している	保護者との情報共有はきめ細かい配慮と、情報頻度のバランスが必要であり、情報が多すぎても迷いの元となり、不足していれば当然不満が発生するのが常である。保護者の反応を見て、アナログ的発信、SNS情報の共有、対話による直接的な伝達など工夫が必要となってくる
3	丁寧なアセスメント面談における説明を行い、保護者と共に作成して行く個別支援計画を目指すと共に、5領域を意識した支援となるよう留意している	保護者と共に作っていく姿勢が重要であり、決して事業所のひとりよがりにならない事が大切と考えている	5領域に沿った支援計画ではなく、今とこれからの児童の成長に必要な事項が5療育のどの部分に当てはまるかを見定めて行き、常に分析評価の姿勢を崩してはならない

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携を進めるに当たり、どのような手段が適切なかを把握しきれていないのが現状である	今行っている、職員個人の地域参加をもう一歩進め、まずは事業所としての参加から手掛け、児童の連携参加にも進める事を目標とした	どんな行事があるのかを見定める必要があり、どのような形の参加が適切であるかを決定していく事から始めたい
2	保護者会の充実を図りたいが、マンネリ化と情報発信の弱さが混在し、保護者が本当に参加したいと思うような企画を目指したい	参加人数が少ないのがネックではあるが、開催すれば保護者同士の和気藹々感も深まっているのが現状である。保護者へのアピールと共感を大切にして発信して行きたい	保護者へのアンケートを行い、タイミングや内容を詰めていきたい
3	H P 内容の充実	開かれて施設運営、統制されたガバナンス、法令遵守を基本として、保護者のみならず第三者にも目にしていだける内容とした	H P 作成プロジェクトチームを発足させ、ビジュアル的にも視線が集まる内容とした